

現代社会に主体的に生きる自己を確立するための思考力の育成

～社会的事象を身近にとらえさせるアクティブ・ラーニングを通して～

福島県立光南高等学校 教諭 緑川 祐

## 1 研究の趣旨

暗記再生型の授業に終始することなく、学習内容を生徒自身の問題としてとらえさせ、生徒が主体的に考える必要性を自覚するにはどうしたらよいか。この問いに対する一つの試みとして、本主題を設定した。

ここで言う「思考力」とは、授業で扱う事象とそれに関連する出来事（以下、社会的事象）に対して、自分と他者あるいは当事者と非当事者とでは見方や考え方に違いがあることに気付き、さらには、人間、社会、文化、科学、自然などの側面を踏まえた見方や考え方をするなど、多面的・多角的に考察ができる力の育成である。そのような思考力を育成するために、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた以下の仮説を踏まえながら、研究を行った。

公民科の授業において、以下の【視点1～3】に基づいた手だてを講じれば、社会的事象を身近にとらえさせ、現代社会に主体的に生きる自己の確立に向けた思考力を育むことができるであろう。

【視点1】 既習の知識や概念と自分との関わりを見いだす工夫（対自化）…イメージマップの活用

【視点2】 他者と自分との関わりを見いだす工夫（相対化）…共感的・批判的感想を出し合う

【視点3】 社会と自分との関わりを見いだす工夫（深化）…社会的事象を多面的・多角的にとらえる

## 2 研究の概要（科目「倫理」での実践）

(1) 授業実践で扱った単元名

① 前期実践 <古代ギリシアの思想（全6時間）>

○ 「善く生きる」とはどういうことか、をメインテーマに据えて、活動を行った。

② 後期実践 <生命倫理（全6時間）>

○ 医療技術が進歩した現代において、生命の扱い方はどうあるべきかを考える活動を行った。

(2) 【視点1】 既習の知識や概念と自分との関わりを見いだす工夫（対自化）

「対自化」は、学習した知識や概念が生徒自身に身近であることに気付くための活動である。社会的事象が、自分の生活や生き方にどのように関わるかを、イメージマップに記述することで可視化した。

(3) 【視点2】 他者と自分との関わりを見いだす工夫（相対化）

「相対化」は、各自がイメージマップに記述した内容を他者と見せ合い、相互に感想を述べる活動である。その際、感想を述べる生徒には、共感的感想と批判的感想を出すように指示した。この活動を通して、自分が関連付けたことを多角的にとらえなおすことをねらいとした。

(4) 【視点3】 社会と自分との関わりを見いだす工夫（深化）

「深化」は、多角的な見方に加え、社会的事象を多面的に思考できるようにすることをめざす活動である。立場が異なる人々の意見や、それらの背後にはどのような社会的側面があるのか考え、思考を深めることをねらいとした。手だてとして、二項対立（賛成・反対）の問い立てによるディスカッションを取り入れた。

## 3 研究の成果と課題

社会的事象を多面的・多角的にとらえて、自分の考えを論理的に表現できるようになった生徒が、前期実践よりも後期実践のほうが多くなった。これは、回を重ねるごとに多面的・多角的に思考できる生徒が増加したということであり、思考力の育成に焦点化して実践を繰り返した結果だと考える。

また、学習活動によって表出された多様な思考・表現の結果を評価するにあたり、評価規準のさらなる明確化が必要であると感じた。学習の方向性・目標を生徒が把握しやすいよう、評価規準をある程度生徒に示すことや、発問や例示の在り方にもさらに工夫の余地があると考えた。